

朝日連峰中沢峰を巡視しました

令和2年11月5日(木)、朝日連峰の南の一角、中沢峰を巡視しました。以前設置した森林生態系保護地域標識(以下「小看板」)の確認と破損があった場合の補修等を主目的に、朝日庄内森林生態系保全センター職員3名により実施しました。



雨の祝瓶山荘

雨降る祝瓶山荘、その脇の登山口から中沢峰へと向かいました。山荘脇から右手にある急な歩道に取り付くのですが、水源に向かう歩道が真っ直ぐに伸びていて、ついついそちらの方に行きたくなってしまいます。すぐに道は消えて小沢になってしまいますが、注意してください。

はじめの1時間くらいは胸をつくような急登を喘ぎ喘ぎ登ります。ただ、丁寧に道の刈り払いがされているので、急登の割には歩きやすかったです。

地元の方々のこの山への思いが伝わってきます。



取付の急登を歩く



途中見つけた古い村境の石碑

途中、かつての村境を示す古い石碑を見つけました。上部に当時の村名が並んで刻まれていましたが、読み取れたのは右の「西根」だけでした。もちろん、市町村合併により、今は何れも存在しない村の名前なのでしょう。

登るにつれて道はなだらかになり、雨も止みましたが、道は昨夜降ったと思われる雪に覆われてきました。時折吹く強い風に、気温以上の寒さが、身体に刺さります。

途中で遭った真新しいクマの足跡には更に寒いものが背中に走りましたが。



歩道上のクマの足跡



中沢峰から葉山の稜線

今回の巡視の目的である小看板は、中沢峰から葉山へ向かう稜線を少し下ったところにありますので、雪の着いた岩混じりの稜線を慎重に歩いて行きます。幸いこのときは風も弱まり、難なく通過することができました。

頭を雲に隠した大朝日岳方面の山々が雄大でした。

小看板確認の結果、特に破損等もなかったなので、天候が悪化する前に速やかに下山しました。途中、冷たい雨が降るなか、植物や樹木の違法な採掘・伐採、ゴミの投棄等がないかも点検しました。幸い被害は見受けられず、巡視は無事に終了しました。



森林生態系保護地域標識状況確認

なお、アプローチの県道は道幅が狭い上に谷側はガードレールもほとんどないため、暗くなつてからの走行は避けた方が良いと思います。

東北森林管理局
朝日庄内森林生態系保全センター